

誰も置き去りにしない、
生き抜く力にあふれた
子どもたちを育むために



インフォメーション

心に届けるおすすめコンテンツ

親子の信頼関係を深める 「コーチング」

学校でも、会社でも教えてもらえない
コミュニケーションの技術を、ぜひ
使ってみませんか？

ご視聴は二次元コードから



気づきが得られる 学びの動画！

ニッケ教育研究所

理事長 楠本 景央 氏



決められた決勝点

一つの言葉が人生を左右するときがある。一つの
言葉から勇気が湧き上がり、難局を乗り越えられ
るときがある。
これは、私の信条のひとつです・・・

続きは二次元コードから



スマホで読める 感動のコラム！

ニッケ教育研究所

顧問 勝本 孝夫 氏

元・大阪市立榎本小学校校長
元・大阪市立姫里小学校校長



一般会員募集

私たちと一緒に、「子どもたちが生き生き伸び伸びすごせる環境づくり」に参加していただけませんか？
子どもたちは“未来の宝”です。私たちが発信する未来の宝を育む情報を、学校・家庭・地域で
是非ご活用ください。入会のお申し込みは、ホームページでご案内しています。

編集後記

「想い」を形にいくためには「実践」が必要となります。しかし、「このように活動すればその想いが実現できる」というような「正解」はないと感じています。教育現場では、それぞれの学校で「めざす子ども像／生徒像」を掲げ、創意工夫を凝らしてさまざまな取組やイベントを進められています。そして、学校だけでなく保護者・地域・行政も一緒になって進められており、子どもたちの健やかな成長への願いが伝わってきます。当研究所が「学校グランドデザイン」構築をご支援させていただいている学校においても、熱い想いを語っていただき言葉に変えていきました。今回は、想いを「学校グランドデザイン」で図式化して表すことに加えて、その想いを「実践」していくために、学校が大切にしている具体的な行動を「行動指針」として明文化しました。これらが日々の行動の基本となり、創意工夫を重ねながら取組を進めていくことで「想い」が実現されていくことを願っています。

一般社団法人ニッケ教育研究所
理事長 楠本 景央



未来
Watch
みらいウォッチ

2026 夏号（年4回発行）No.26
2026年7月20日 発行
本紙掲載の記事は、複写・複製・転載を禁じます。

《発行》 一般社団法人ニッケ教育研究所
〒541-0048 大阪市中央区瓦町3丁目3-10
TEL: 06-6205-6665 <https://nikke-edu.org/>

未来 Watch みらいウォッチ

生き抜く力にあふれた子どもたちを育むコミュニティー・・・

特集

未来につなぐ学校づくり 第11回

教職員自身が学び続け、 実践を大切にする学校づくり

私がつくる子どもの笑顔 第22回

子どもたちの笑顔あふれる学校づくり

～ 新たな伝統「金塚プライド」を子どもたちに ～

特別企画

学校グランドデザイン 構築プログラムの実践

インフォメーション

心に届けるおすすめコンテンツ

※写真はマントン（フランス）です

ニッケ教育研究所
NIKKE Institute of Education



子どもたちは、やがてより広い社会との関わりを持っていくことになります。その未来を輝かせるために、必要な力を身につけておくことが大切です。ここでは、中学生世代の子どもたちの教育について、現職の校長先生に考え方や具体例を紹介していただきます。

第11回は、大阪市立東淀中学校の高元伊智郎校長です。

第11回

教職員自身が学び続け、実践を大切にする学校づくり

《大阪市立東淀中学校》^{たかもと いちろう} 高元 伊智郎 校長

本校(大阪市東淀川区)は淀川右岸に位置し、校歌の歌い出しには「大川の みなぎり流る その力」とあります。校名は、「東淀川区で一番の学校になってもらいたい」という地域の熱い願いによって命名されました。

阪急電鉄「上新庄」駅、またはOsaka Metro「だいどう豊里」駅から徒歩15分ほどの場所に位置し、校区内には府立北視覚支援学校や府立淀川清流高校があります。創立70年を迎えようとしており、これまでに2万人を超える卒業生を送り出してきました。卒業生の中には、タレントの岡村隆史さん、濱家隆一さんら著名な方々もおられます。2026(令和8)年4月現在、各学年6クラス、特別支援教育学級10クラス、通級指導教室1クラスの計29学級で、生徒数は666名、教職員数は55名です。東淀川区内でも規模の大きな学校となっています。



校訓

誠実 自律 協力 創造

学校教育目標

個人の尊厳を重んじ、よりよく生きる力を育む教育活動を推進する

課題と改善の歩み

10年ほど前までは校内暴力などにより非常に厳しい状況にありましたが、PTA・地域・行政・先輩諸氏のご尽力により、学校の取組が幅広く実を結び始めています。学校生活が落ち着きを取り戻していく中、生徒の活動も充実してきました。特に部活動では、大会やコンクールで高い評価を得ています。一方で、学力および体力の各種調査では平均を下回っている項目もあり、「授業改善」や「家庭学習」など、今後さらに強化すべき領域が明確になっています。また、新しい取組に慎重さが見られたり、必要以上に個人の考えにリードされたりする傾向もありましたが、教育委員会事務局からの多面的

な支援を受け、組織としての一体感が着実に高まりつつあります。このような状況にあって、学校全体が「**チーム東淀**」として取組を進める意識をさらに継続して醸成していく必要があると感じました。



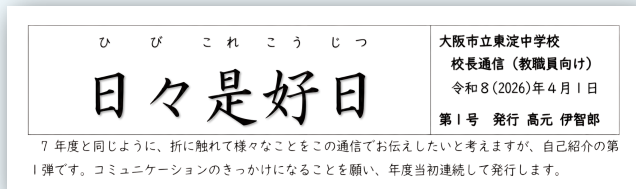
市中学校春季総合体育大会「軟式野球の部」で優勝

学校経営の第一歩

私が着任する以前から、先輩諸氏がさまざまな取組を進めてこられましたが、ここでは着任後の取組について記させていただきます。

毎年4月1日からの1週間、「校長の自己開示」を目的として、「生い立ち・職歴」「教育実践」「生徒や保護者との出会い」などを連続して『校長通信 日々是好日』としてまとめ、教職員に配布しています。また、毎朝正門で生徒を迎えることを

心がけるとともに、校長室のドアもできるだけ開けておくようにしています。



学校経営として最初に着手したのは**グランドデザイン**の作成です。学校が何を大切にし、どのような取組を行っているのかを共通理解するうえで、グランドデザインは有効です。研修主任がリードし、さまざまな取組を整理して「見える化」することができました。

グランドデザインはこちらからご覧いただけます

(学校ホームページ)



学ぶことを大切に

2024(令和6)年度には、愛着傾向のある生徒へのかかわりを学ぶため、梅花女子大学の伊丹昌一教授をお招きし、「**愛着障害の理解と支援**」をテーマに校内研修会を実施しました。研修では、「愛着障害の実際」「具体的ななかかわり方～正しい自己主張を教える、毅然とした態度、柔らかな声掛けを行う」「教師・支援者の備え～感情のコントロール、怒り・ストレスと上手に付き合う」などを学びました。

2025(令和7)年度には、「**非認知能力の育成**」を学ぶため、All HEROs合同会社代表(元・岡山大学准教授)の中山芳一氏をお招きし、「非認知能力が子どもを伸ばす」をテーマに、PTAと共催で校内研修会を実施しました。研修では、「非認知能力の基礎」「非認知能力が重視されるようになった背景」「非認知能力及び学力を伸ばすための授業づくりの方法」「メタ認知の大切さ」などを学びました。現

実践することを大切に

さまざまな学校行事や学年の取組を通して、以前から**学校力の向上**を図ってきました。近年では、『「班活動で集団作り・協働学習」を進めた授業・学級・学年の実践』、『「探究」を3年間にわたって取り組んだ学年の実践』、『「ポジティブ行動支援」に取り組む教職員』『「マルチリートメント」を意識した声掛けをする教職員』など、学年単位・個人単位で優れた実践が行われています。

また、「応援される学校(部活動・○○)になろう」というメッセージを、さまざまな場面で生徒に伝えています。生徒会では、「日々前進 みんなで学ぶ東淀」「一致団結 大阪一の学校へ」などのスローガンを毎年定め、美術イラスト部がグラウンドから見えるように掲示しています。

おわりに

私は、1983(昭和58)年4月に茨木市立中学校に社会科教員として着任し、その後、茨木市教育委員会事務局での勤務も経験しました。退職前には茨木市立中学3校の校長職を拝命し、ご縁あって大阪府公立中学校長会や近畿中学校社会科教育研究会の会長職も務めさせていただきました。退職後は、私立高校の入試広報部として大阪市内の中学校を訪問する機会を得て、各校が特色ある教育を進めておられることを知り、私自身もそ



在、学力の土台となる非認知能力の育成に向け、さまざまな「ギミック(仕掛け)」を取り入れています。

以前から、不登校対応教室「**ひがよどステップ**」を学校独自に設置していましたが、2026(令和8)年度には教育委員会の支援を受け、「SSR(スペシャル・サポート・ルーム)」として支援員の配置を得ることができました。また、非認知能力の育成をさらに進めるため、市総合教育センターの支援を受け、「質の高い探究的な学びを推進するカリキュラム構築にかかる拠点校支援事業」および「大阪市非認知能力調査モデル事業」に取り組む予定です。これらの事業は、教員の負担にも配慮しつつ、一人一台端末やデジタル教材を活用して2年間にわたり実施されるもので、本校がさらに発展する契機になると考えています。



の仲間に加わりたいという思いが高まりました。そこで、大阪市教育委員会の公募校長(外部人材枠)選考試験に応募し、現在の職を得ました。

自分のこうした歩みが、管理職の先生方や管理職をめざす方々に対し、「管理職は素晴らしい仕事なんだ!」と再認識していただく一助になればと願っています。まだ道半ばではありますが、これからも子どもの成長を第一に考えた学校づくりを進めていきたいと考えています。

私がつくる 子どもの笑顔

子どもたちの元気な声や輝く笑顔にあふれた学校をめざし、現場ではさまざまな創意工夫が活かされています。ここでは、小学生世代の子どもたちの教育について、現職の校長先生に考え方や具体例を紹介していただきます。
第22回は、大阪市立金塚小学校の細川克寿校長です。

第22回 子どもたちの笑顔あふれる学校づくり ～新たな伝統「金塚プライド」を子どもたちに～

ほそかわ かつひさ
《大阪市立金塚小学校》 細川 克寿 校長

金塚小学校（大阪市阿倍野区）は、1923（大正12）年3月31日に「村立天王寺第五尋常小学校」として創立しました。現在は、全校児童153名という小規模校の特長を生かし、一人一人の個性や能力を丁寧に伸ばす教育に取り組んでいます。保護者や地域との信頼関係を大切にしながら、全教職員が一丸となって、子どもたちの「金塚プライド」を育む指導を進めています。

学校教育目標

心豊かでたくましい子を育てる



新たな伝統「金塚プライド」

今から7～8年前、金塚小学校では創立100周年に向け、さまざまな教育活動に取り組んでいました。なかでも、当時の山本校長が最も力を注いだのが「**金塚プライド**」です。子どもたちの姿を具体的に示した8つの柱を全校で共有し、日々の生活や学習の中で積み重ねていったことで、子どもたちは大きく成長しました。創立100周年を迎えたときには、「金塚プライド」は金塚小学校にとってなくてはならない、新たな伝統になりました。

🏠 金塚小学校は一つの大きな家族

昨年度着任したとき、私は「金塚プライド」の存在を知り、その一つめの柱である「金塚小学校は一つの大きな家族」という言葉に深く共感しました。本校の子どもたちを見ていると、本当にこの言葉がよく当てはまります。高学年は下級生を弟や妹のように可愛がり、低学年はお兄さんやお姉さんをリスペクトし、「あんな高学年になりたい」と憧れを抱く——そんな子どもたちでいっぱいです。私は、このような子どもたちを心から誇

金塚プライド

1. 金塚小学校は一つの大きな家族
2. 優しい話し方と温かい聞き方
3. たくましい心とかしい体
4. 好きやねん金塚小学校
5. あこがれられる高学年
6. 早寝・早起き・朝ごはん
7. 見える学力と見えない学力
8. 学問のすすめ

りに思っています。そして、子どもたちにもこの学校の児童であることに誇りを持ってほしいと強く願っています。

今あらためて「金塚プライド」を学校の中心に据え直し、保護者・地域の皆さんと教職員が力を合わせ、子どもたちの笑顔があふれる学校をつくっていきたくと考えています。

6年生は新しい学校のリーダー（児童会活動）

全学年が単学級の本校では、6年生全員が学校のリーダーとして活躍します。そのため、児童会活動で一般的な代表委員会は設置していません。委員会活動の運営委員会での話し合いをもとに、6年生が「リーダー会議」を開き、各行事の企画・運営を担っています。児童会行事は、たてわり班による「**わくわくグループ活動**」を中心に実施し、異学年交流を活発に進めることで、豊かな心の育成につながっています。

「児童会活動計画」

4月	入学を祝う会 わくわくグループ編成	12月	わくビカタイム②
5月	わくわく遊ぼう週間① 見守り隊顔合わせの会 マナーアップウィーク	1月	マナーアップウィーク わくわく遊ぼう週間②
6月	金塚まつり（わくわくグループ）	2月	6年生と遊ぼう週間 見守り隊感謝の会
7月	わくビカタイム①	3月	卒業を祝う会（わくわくグループ） わくビカタイム③
11月	マナーアップウィーク 全校遠足でのオリエンテーリング（わくわくグループ）		

また、本校には歴代の「**金塚レンジャー**」がいて、年度末に卒業生から次の6年生へと引き継がれます。今年度の金塚レンジャーの初任務は、入学を祝う会で、新1年生に「学校生活での大切なルール」を教えることでした。



金塚レンジャーの初任務

学校教育目標に迫る「探究的な学習」

本校では、学校教育目標に掲げている「心豊かでたくましい子」を育てるために、探究的な学習に取り組んでいます。**「見える学力」と「見えない学力」**の双方を伸ばしながら、論理的に課題を解決できる「理数好きの子ども」を増やすことをめざしています。

この取組では、子ども自らが課題や問いを見出し、予想や見通しをもって学習を進めることを重視しています。観察や実験、問題解決といった過程を教師が先導するのではなく、子どもが自分なりの見通しや考えをもち、試行錯誤しながら解決に至るまで経験を積むことを大切にしています。**未知の課題に向き合う粘り強さや、学ぶことの楽しさを育てる**ことが重要だと考えているからです。

3年生では、子どもたちが「防災マップを作ろう」というテーマ



探究的な学習の様子

憧れられる高学年

6年生を中心とした高学年の子どもたちには、「憧れられる人」になれるよう、学校全体で指導しています。しかし、**下級生が上級生の姿を見習って憧れていくというサイクル**が本校には伝統的に根付いており、それが教職員の指導以上に大きな効果を生んでいると感じています。

小規模校である本校では、児童会活動の「わくわくグループ活動」を中心に、高学年が活躍する機会がたくさんあります。卒業するまでに、全校児童の前で話をする役割を全員が経験できるほどです。また、児童代表としてあいさつを述べる

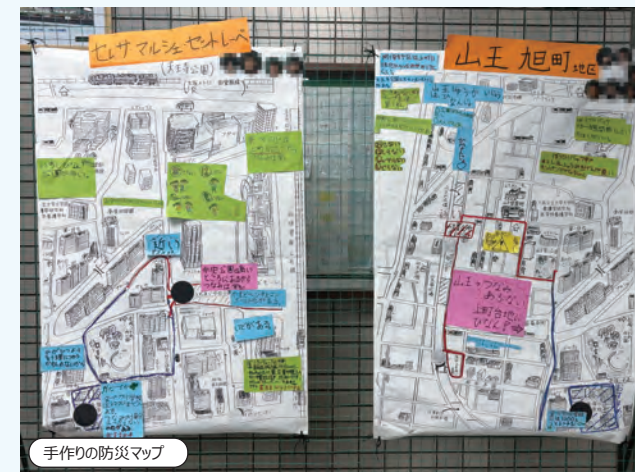
よく遊び、よく学ぶ

本校の子どもたちは、運動場でよく遊びます。昼休みは20分ですが、月に1回、35分に延長した自由活動の時間を設けています。名付けて「**ゴールドンタイム**」です。この名前は「金」塚小にぴったりだと思っています。子どもたちは毎回とても楽しみにしており、前もって「何をしようか」と考えているようです。

おわりに

受験勉強のために「今」を我慢して将来の幸せをつかもうとした時代とは変わり、現代は、子どもたちが自分の興味のあることに夢中になって取り組めるようにしてあげることが大切だと

を設定し、災害時にどこへ避難すればよいかを考え、オリジナルの防災マップにまとめました。避難所への最短ルートを調べる際には、算数科「円と球」で身に付けたコンパスの使い方を活用し、距離を測り取っていました。完成した防災マップは、学校で行われた地域行事「まちなか防災」で紹介し、各地域の避難経路を提案しました。防災に関する探究的な学習を通して、自分たちの学びが地域の方々の役に立ったという実感を得るとともに、地域住民の一員としての自覚を育むことができました。



手作りの防災マップ

際には、原稿をただ読むのではなく、相手を見てしっかり話すという素晴らしい伝統が受け継がれています。



わくわくグループ活動の様子

当日になると、いつも以上に多くの子どもたちが運動場に出れます。小規模校にしては広い運動場なので、子どもたちは存分に遊ぶことができます。自分でやりたいことを決めたり、自分の思いを大切に活動を楽しんだりすることは、子どもたちの学びにもつながっていると考えています。

考えています。子どもたちが「今」を幸せに感じ、将来の幸せや社会の幸せにつながる学びを積み重ねていく——それを支える存在でありたいと思っています。

学校版『パーパス経営』の可能性

昨年夏号で紹介した「学校グランドデザイン構築プログラムの実践」は、この1年で着実に前進しました。田島南小中一貫校では、完成したグランドデザインを基に、学校全体の「行動指針」へと落とし込むフェーズに深化。一方で、新たに大空小学校との協働がスタート。創立20周年という節目を迎え、大切にしてきた理念を未来へつなげるためのグランドデザインを策定しました。ここでは、2校の実践を通して見えてきた学校版『パーパス経営』の可能性についてご紹介いたします。

（ニッケ教育研究所 所長 橋本立志）



学校グランドデザインについて解説したハンドブック
左：田島南小中一貫校（大阪市生野区）



右：大空小学校（大阪市住吉区）

学校グランドデザイン構築プログラムの実践

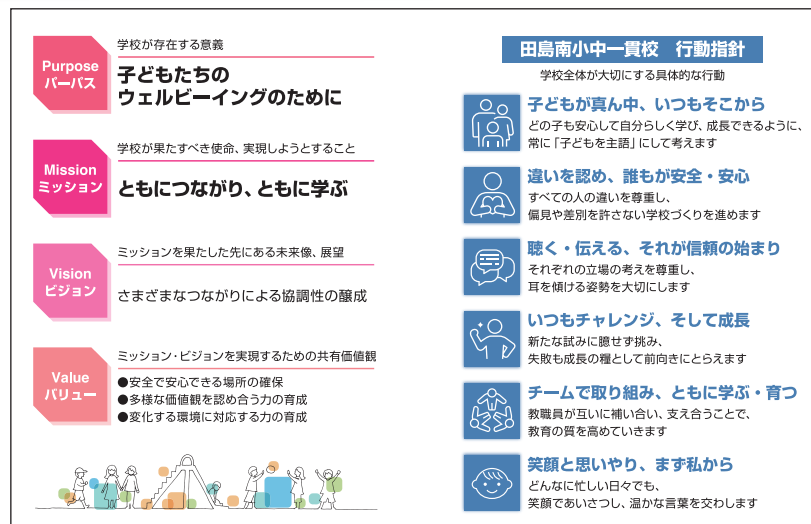
田島南小中一貫校 大阪市立田島南小学校 大阪市立田島中学校

グランドデザインを行動に——深化フェーズでの実践

2025年度は、前年度に策定したグランドデザインを基に、行動指針の設定に取り組みました。その際、「現場で使える言葉」で表すことにこだわりました。

学校グランドデザインは、**教育活動の全体構想を図式化**して表したものです。即ち、学校がめざす姿に向かって進むための道筋を明らかにする「羅針盤」とも言えます。対して行動指針は、**学校が大切にしている具体的な行動を明文化**したものです。グランドデザインで示した理念を体現し、行動へつなげるための「道しるべ」とも言えます。

本校では、グランドデザインで示した「パーパス」や「ミッション」を再確認することから始めました。そして「コアバリュー（核となる価値観）」をどのように子どもたちや保護者に提供していく



田島南小中一貫校の「パーパス・ミッション・ビジョン・バリュー」と「行動指針」

のかを考えていきました。このプロセスを経てつくりあげた「行動指針」が、教職員の皆さまの日々の判断を支える確かな道しるべとなることを願っています。

- 1 行動指針のメリットの共有 … 企業における「行動指針」の例を共有し、その役割と効果を知る
- 2 ケーススタディⅡからの思索 … グランドデザインが浸透していない学校の話から、その理由を考える
- 3 「提供価値」についての議論 … 学校が子どもたちや保護者に約束する「提供価値」について考える
- 4 「行動指針」についての議論 … グランドデザインの実現に向けた「行動指針」の素案をつくる

大阪市立大空小学校

大切にしてきた「ことば」をグランドデザインで編集する

すべての子どもの学習権を保障する学校をつくる——これは、開校当初から守り抜いてきた学校理念です。また、「みんながつくるみんなの学校」や、育てたい「4つの力」などさまざまな言葉が保護者や地域に深く浸透し、大空小学校の文化そのものを形づくってきました。

一方で、外部環境が変化する中、時代とともに変わっていかねばならない部分があることも確かです。本校では開校20周年という大きな節目を機に、大切にしてきた考え方や言葉を再確認することから始めました。

学校版パーパス経営の視点で改めて見つめ直すと、大切に

されてきた言葉が多いがゆえに、全体の整合性や位置づけが曖昧になっているという課題が見えてきました。そこで、

これまで受け継がれてきた言葉を一つひとつ丁寧に読み解き、学校の「パーパス」「ミッション」「ビジョン」「バリュー」として再構築することをめざしました。ケーススタディを用いた対話を重ねる中で「大空小学校らしさ」を改めて共有し、20年間の積み重ねを「現在の学校運営の軸」として再編集していきました。

その結果、一本のストーリーとしてつながるグランドデザインが完成しました。これは学校文化を未来へ引き継ぐための「再定義」であり、同時に「再出発」でもあります。



大空小学校グランドデザイン



持続可能な学校づくりを、これからも

2校での実践を通して、企業でのパーパス経営が教育現場に応用可能なことがわかりました。また、以下の3点を念頭に置いて取り組むことの重要性を再認識しました。

- ① ケーススタディを起点に、現場のリアリティを引き出す
- ② 理念➡️行動➡️文化へとつなげる一貫したプロセス
- ③ 学校の規模や状況に左右されない再現性の高さ

これからも学校の個性と地域性を尊重し、持続可能な学校づくりを支援してまいります。当プログラムは今後もブラッシュアップし、より多くの学校に価値を届けてまいります。

お問い合わせ：info@nie.nikke.co.jp

会報誌2025夏号はコチラから

